

カティンの森 (2007)

KATYN

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 ポーランド

色彩 Color

時間 122分

初公開日 2009/12/05

公開情報 アルバトロス

映倫 R15+

【キャッチコピー】

明日を生きていく人のために
そしてあの日 銃身にさらされた
愛する人のために

【解説】

第二次大戦下、ナチス・ドイツとソ連の両方から侵略され、両国に分割占領されたポーランド。そんな中、ソ連の捕虜となったポーランド人将校のうち1万数千名の行方が不明となり、後にソ連によって虐殺されていたことが判明する。いわゆる“カティンの森事件”と呼ばれるこの悲劇は、ソ連の支配下にあった冷戦時代のポーランドにおいて語ることの許されないタブーとされてきた。本作は、自らの父親もこの事件の犠牲者の1人であるポーランドの巨匠アンジェイ・ワイダ監督が、そんな歴史的犯罪に改めて光を当てるとともに、国家の欺瞞に翻弄される犠牲者家族の苦悩を描き出す入魂の人間ドラマ。

1939年9月、ポーランドは密約を結んだナチス・ドイツとソ連によって分割占領されてしまう。ソ連側では多くのポーランド人将校が捕虜となり収容所へと送られた。その中にはアンナの夫アンジェイやその友人イェジも含まれていた。一方、ソ連領に取り残されていたアンナと娘ニカは、1940年春によく国境越えに成功、アンジェイの両親のもとへと戻る。しかし、そこに義父の姿はなかった。彼はドイツ軍に逮捕され、収容所で命を落としてしまう。アンナは義母と娘と3人でアンジェイの帰りを待ち続ける。そんな中、1943年4月、ドイツ軍はソ連領のカティンで多数のポーランド人将校の遺体を発見したと発表する。その犠牲者リストにアンジェイの名前がなかったことに望みを託し、ひたすら帰りを待ち続けるアンナだったが…。

【クレジット】

監督 アンジェイ・ワイダ Andrzej Wajda
製作 ミハウ・クフィエチンスキ Michal Kwiecinski

原作 アンジェイ・ムラルチク Andrzej Mularczyk

脚本 アンジェイ・ワイダ Andrzej Wajda
ヴワディスワフ・パシコフスキ Wladyslaw Pasikowski
プジェミスワフ・ノヴァコフスキ Przemyslaw Nowakowski

撮影 パヴェウ・エデルマン Pawel Edelman

衣装 マグダレナ・ビェドジツカ Magdalena Biedrzycka

編集 ラファウ・リストパト Rafal Listopad

音楽 クシシュトフ・ペンデレツキ Krzysztof Penderecki

出演 マヤ・オスタシェフスカ Maja Ostaszewska アンナ

『カティンの森』(集英社刊)

アルトゥル・ジミエフスキ	Artur Zmijewski	アンジェイ
マヤ・コモロフスカ	Maja Komorowska	アンジェイの母
ヴワディスワフ・コヴァルスキ	Wladyslaw Kowalski	アンジェイの父 ヤン教授
アンジェイ・ヒラ	Andrzej Chyra	イエジ
ダヌタ・ステンカ	Danuta Stenka	大将夫人ルジャ
ヤン・エンゲレルト	Jan Englert	大将
アグニエシュカ・グリンスカ	Agnieszka Glinska	イレナ
マグダレナ・チェレツカ	Magdalena Cielecka	アグニエシュカ
パヴェウ・マワシンスキ	Pawel Malaszynski	ピョトル
アグニエシュカ・カヴォルスカ	Agnieszka Kawiorska	エヴァ
アントニ・パヴリツキ	Antoni Pawlicki	タデウシュ（トウル）
クリスティナ・ザフファトヴィチ	Krystyna Zachwatowicz	グレタ